

AFC フォーラム Forum

Agriculture, Forestry, Fisheries, Food Business and Consumers

2

2015

特集 国産材の内需は増えるか



特集

国産材の内需は増えるか

3 木材利用の開拓こそ自給改善のカギ

五十田 博・南 宗和

国産材自給率28%を5年後に50%へ回復させるには、木材を利用できる領域・環境を整備し、「ブーム」と言われない取り組みの継続が欠かせない

7 地域主導型バイオマスの成功事例を

相川 高信

再生可能エネルギーとして国産木材の利用に期待が高まる一方、原料調達
の限界も懸念される。成功の行方は、中小規模の熱電併給体制が握る

11 期待高まる、21世紀型建材「CLT」

中島 浩一郎

木材資源を使った環境負荷の少ない21世紀型建材として脚光を浴びる
CLT。その特徴や可能性とともに実用化の課題を紹介する

特別企画

15 ~駆け上がる地域農業の担い手たち~ 平成26年度アグリフードEXPO輝く経営大賞 経営部門(西日本エリア)

有限会社フクハラファーム／滋賀県

160ヘクタールの大規模稲作法人を地域農業の優良経営として表彰。ICT
導入で低コスト化を図る、先進経営のあらしを紹介する

経営紹介

経営紹介

23 集落全農家参加し観光農園事業 里山景観守る稲作で都市と交流

有限会社甘原ええのお／岐阜県

設立後赤字が続く中で手掛けたのは、いちごの観光農園。大勢の都会の人
に来てもらい「いいなあ」を感じてほしいと、方言を社名に冠した

変革は人にあり

27 鈴木 通夫

丸善木材株式会社／北海道

相場の影響を受けやすい川上から川下の企業・団体を協同組合化し、互いの
強みを生かす経営で成功。地域の木材産業の底上げに尽力する人物に迫る



撮影：中野 耕志
岐阜県加茂郡八百津町
2001年1月撮影

夕暮れの青い森

■木曾川中流の山里に積もった雪が、深緑一色のスギとヒノキの森を
一変させた。日没直前、淡いオレンジ色に染まる西の空と冠雪した青い
森とのコントラストが美しい■

シリーズ・その他

観天望気

農業が持つ豊かな教育的機能 奈須 正裕 ……2

農と食の邂逅

株式会社高梨農園 高梨 尚子

青山 浩子(文) 河野 千年(撮影) ……19

耳よりな話 155

沖縄がルーツの「べたがけ栽培」

吉岡 宏 ……22

主張・多論百出

NPO法人鳴子の米プロジェクト

上野 健夫 ……25

フォーラムエッセイ

ヒップホップでお料理を

DJみそしるとMCごはん ……30

まちづくりむらづくり

世界農業遺産の歴史と文化と景観に

過疎化・高齢化の里がよみがえる

蔵本 学 ……31

書評

中島 岳志 著『血盟団事件』 宇根 豊 ……34

インフォメーション

「公庫林業資金友の会」を開催 京都支店 ……35

オホーツクで農と食の講演会が盛況 北見支店 ……35

第11回「アグリネットワーク秋田」を開催 秋田支店 ……35

交叉点 農業金融の国際会議に出席 情報企画部 ……35

九州経済連の木材輸出の取り組みを後援 九州経済連合会 ……36

みんなの広場・編集後記 ……37

ご案内

第8回アグリフードEXPO大阪2015 ……38

*本誌掲載文のうち、意見にわたる部分は、筆者個人の見解です。

望天 観気

農業が持つ豊かな教育的機能

教育界では引き続き学力をめぐる議論が盛んだが、ここに来てその様相は大きく変化してきた。かつて「学力低下」の原因とさえ疑われた「総合的な学習の時間」や、そこにおける「探究的な学習」にしっかり取り組むほど、教科学力が高いことが、全国学力テストの分析結果から明らかとなったのである。

本の中の知識を教師が説明的に教え込むより、子どもが地域に飛び出し、実体験を通してそのよさや問題に気付くと共に、みずから問いを立て、他者と協同しながらさまざまに工夫を凝らして問題解決に挑む中で考えを巡らせた方が、学力が高い。この逆説的とも思える現象を読み解く鍵は、一八世紀スイスの教育学者ペスタロッチの「発見」に求めることができる。

ペスタロッチは、教育をめぐる諸問題の深刻化が、当時進行中であった産業革命に伴う農業の低迷や村落協同体の衰退と深い関係にあることに気付き、ついには農業を基盤とした地域協同社会での豊かな生活経験それ自体が、子どもを賢く、たくましく、やさしく育て上げる力を兼ね備えていたことを発見する。

当時の農業社会では自然にほんろう翻弄される不安定な生産・労働を余儀なくされた。しかし、だからこそ人々は身の周りの出来事全てに注意を払い、丁寧に観察し、思慮深く考え、よりよいあり方を求めて工夫や挑戦を怠らず、また互いに協力して日々の生活や仕事の改善・創造に当たっていた。子どもたちはそんな大人たちと共に、ただただ誠実に暮らすことを通して、知的にも社会的にも情緒的にも、立派な人間に育っていったのである。

近年、農業の持つ教育的な機能が脚光を浴び、農林水産省の「教育ファーム」事業をはじめとして、食と農を主題とした教育的取り組みが全国各地で多彩に創造・展開されている。しかし、その意義は豊かな情緒的・身体的体験に留まらない。一方で思考や判断といった高度な知的学びを、もう一方で多様な他者との創造的協同という社会的学びを提供し得ることに改めて注目したい。農業が持つ教育的機能は、地域創生の切り札にもなり得る可能性を秘めた、貴重な文化的・社会的資産である。



上智大学総合人間科学部 教授

奈須 正裕

なす まさひろ

国立教育政策研究所、立教大学などを経て、現職。専門は教育心理学、教育方法学。「生活教育」の可能性を探るべく、食農教育、住まい・町づくり学習などに取り組んできた。主な著書に『知識基盤社会を生き抜く子どもを育てる』（ぎょうせい）、『子どもと創る授業』（ぎょうせい）など。

つぼにはまった達成感
やればやるほどおもしろい
ものづくりの楽しさ
どれも同じですけど
野菜づくりが大好きです



高梨 尚子 さん

神奈川県三浦市

株式会社高梨農園 取締役

戦後七〇年を経過し、農業は法人化や六次産業化など経営の変化が求められている。一方で、女性農業者が目立つようになり、その女性の目線から生み出される新しい発想が、古くからのブランド産地に新しい風を吹かせている。





P19: 海を臨む畑で収穫したダイコンの一部は天日干して漬物にする。左は妹の道代さん P20: 母、葉子さんと。丹精込めてつくったダイコンは、実に肌がきれい(右) 切り干し大根の加工も行う(左上) 関東一円の個人宅に送る色とりどりの野菜(左下右) 姉妹で商品化したジャムやピクルス。「定価で販売できるところが魅力」と尚子さん(左下左)

父の期待に就農を決心

四人姉妹の次女、高梨尚子さん(三五歳)が農園を継ぐ決心をしたのは高校生の頃。両親から言われたわけではなかったが、「いつも父が楽しそうに農業をしている姿を見て育ちました」と話す隣で母の葉子さん(六三歳)は、「主人は『家を継ぐ人間が最も幸せだぞ』と水を向けてましたけどね」と笑う。長女の久美子さんが別の道に進むと決めた時点で「やるのは私かな」と心の中で決めた。親思いの優しさが柔和な表情ににじみ出ている。

農業を始める前に好きなことを思い切りしよう、大学では服飾を学んだ。結婚を決めた武晃さん(三八歳)も就農に賛同し、二〇〇四年に夫婦そろって就農した。

三浦半島のほぼ先端にある高梨農園。温暖な気候が育む農産物は「三浦野菜」として確固たるブランドを築いている。恵まれた地で父、利道さん(六六歳)は積極的に規模を拡大しながら、販売先を開拓してきた。

最初は卸売市場への個人出荷。やがて、農協への共同販売を始めたが、「自分で値段を付けたら」と、一九九〇年頃から農協の直売所への出荷を始めた。みずから値段を付けられ、反応が直に返ってくる面白さを知り、徐々に直売に転換していく。今では直売所を三店舗構えるほか、スーパー七店舗とも直接取引をする。さらに、関東近辺の一般家庭の約二〇〇軒にも宅配しており、野菜全体

の七割を直売、三割を農協に出荷している。「こだわりとか差別化ということとはやっていない。普通のことを普通にやってきた。三浦野菜のブランドのおかげかもね。販売先が広がったのは人とのつながり。やっていくうちに広がっちゃうんだよね」。利道さんの生き生きとした表情から、心底農業を楽しむ様子が伝わる。

期待に応え就農した尚子さんは、利道さんからの手ほどきを受けて、ダイコン、スイカ、キャベツなど主力の野菜をつくるようになった。また、直売所向けの目新しい野菜などは、地元(はせ)の初声地区青年部のメンバーからヒントをもらうことが多いそうだ。

三浦半島は農家をメンバーとする青年部の活動が今なお活発な地域で、利道さんと葉子さんも青年部の活動を通じて知り合った。尚子さんは、「メンバーの中にはマニアックな人もいて、同じ野菜でも品種ごとに株間を変えると育ちが変わるなど、つぶさに研究している人がいます。私も勉強会では常に新しい発見があります」と話す。

妹と六次化に乗り出す

就農当時は「家業を継ぐ」という側面が大きかったが、やってみると「野菜づくりはやればやるほど面白い」とつぼにはまった。「出来上がりを想像して手間を掛け、想像通りのものができたときの達成感は何ともいえません。ものづくりの楽しさは、農業も洋裁も同じです」と尚子さん。「時々、失敗もし



笑顔が絶えない高梨家。尚子さんは二人の子どもの母として、後継者として、従業員やスタッフとともに3.6ヘクタールの畑で野菜づくりを精を出す

ますが、改善点を見つけて実践し、結果が求めばよしと思えます」。今では、丹精を込めれば込めるほど応えてくれる野菜づくりの方が洋裁以上に好きだという。

二〇一三年から新たな一步を踏み出した。六次産業化の総合事業化計画の認定を受け、加工品づくりを始めた。これまでもたくあん

漬けや切り干し大根などの加工品をつくってきたが、四年前に四女の道代さん(三一歳)が農園の従業員として加わったことをきっかけに、新たな加工品開発に乗り出した。それが手づくりの無添加ジャム、ピクルス、ドレッシングだ。いずれも農園で採れた野菜を素材にしている。ドレッシングは外

部委託だが、ジャムとピクルスは自宅内の加工所で姉妹が試作を重ねてつくり上げた。ジャムには「大根とレモンのジャム」「カリフラワーのジャム」など、他にはない商品が目をはひく。加工品が最も売れるのは半島の最先端、三崎にある「うらり産直センター」だ。「センター内は魚屋が多く、野菜を販売する店はうちだけです。観光客が多く訪れる場所なので、お土産として買いやすいように瓶も小さめにしました」と道代さん。この読みが当たりし、月に四〇〇〜五〇〇個は売れる人気商品となった。

姉妹による加工品づくりは菓子さんにとっても大きな喜びだ。「農業だけじゃなく、加工品づくりも楽しそうにやっていますよ。ジャムも私たちの年代なら大きめの瓶に入れるでしょうか? でも二人で話し合っていて、小ぶりの瓶にして目先も変えているようだし。こうして、次の世代に農業を渡せることは本当に幸せ」と目を細める。

深まる経営者としての自覚

尚子さんが就農して間もなく、高梨農園は法人化を果たした。法人化は利道さんの一六歳からの夢だった。「取引先の信用も高まるし、雇用すれば家族の誰かが倒れても継続できる」。尚子さんの就農を機に、四〇年かかって夢を実現させたが、肝心の尚子さんは「家族で力を合わせる農業に法人化の意味はあるのだろうか」と消極的だった。しかし今は、「ようやく組織らしくなって

きた会社をきちんと育てたい」と経営者としての自覚を深めている。「従業員に幸せになつてもらえるように給料も上げたい。まずは会社の売り上げを伸ばすことが目標。そのためには、つくったものを全て売り切るように需給調整力を身に付けたい」

需給調整は直売中心に販売する経営者にとって欠かせないことだ。天候の具合で収穫が早まったり、数が増えたときは直売所で精力的に販売したり、逆にJAへの出荷量を増やすなど瞬時の判断が求められる。

また、「大きな畑の作業が優先され、小さな畑まで手が回らないことがあります」と尚子さん。こうした取りこぼしをなくせば、確実に売り上げの向上につながる。さらに、八〇ほどあった品目も四〇弱に絞り込んだ。「皆で力を合わせて課題を一つずつ乗り越えていきたい。でも、基本はいい野菜つくること。いい野菜ができなければ、お客さんに喜んでもらえる加工品もできませんから」と静かな闘志を燃やす。

三〇枚ほどある高梨農園の畑。三方海に囲まれている見晴らしのよい畑もある。農園でつくる野菜が食べられる農家レストランを姉妹が営む。そんな想像が膨らむ場所だ。三浦大根は海風に当たること甘みが増すそう。その気象条件が三浦をブランド産地へと育て上げた。同じようにこの海風は尚子さんにもづくりへの意欲を駆り立て、一歩一歩経営者へと導いている。

(青山浩子／文 河野千年／撮影) **F**

沖縄がルーツの「べたがけ栽培」

日本政策金融公庫
テクニカルアドバイザー

吉岡 宏

通

気性のある不織布や寒冷紗などで野菜を覆って栽培する方法を「べたがけ栽培」と言います。この栽培法は極めて単純な方法ですが、防寒、防暑、防風、防虫、防鳥、乾燥防止といったさまざまな効果があり、しかも、ハウス栽培などに比べて著しく低コストであることから、現在ではレタス、ダイコン、ホウレンソウ、ニンジンなどを中心に全国で七〇〇〇〜八〇〇〇畝の畑で行われています。

この栽培法の起源は、一九五〇年代の初め頃に沖縄の占領米軍に安全な野菜を安定供給するため、豊見城村で防虫や防暑対策として、麻や綿製の寒冷紗を用いた被覆栽培が行われたことによるといわれています。

なお、当時、米軍へ供給される野菜は契約栽培で、人ぶんの使用禁止は当然のこと、病虫害の害が少ないなど衛生管理面での規制が大変に厳しかったようです。その後、被覆資材や展張方法に改良が加えられ、沖縄特有の技術として「べたがけ栽培」が県内に広まりました。

農

業技術の中には、農家の創意工夫によって考案され、その後、試験研究機関などによるメカニズムの解明とともに、改良が加えられて普及技術となったものが多くあります。「べたがけ栽培」もこのような技術の一つと言えます。この沖縄特有の技術に着目



不織布による「べたがけ栽培」(鹿児島県、2012年2月撮影)

したのは、八一年に三重県津市にあった農林水産省野菜試験場から石垣島にある熱帯農業研究センター沖縄支所に赴任された中村浩さんで、寒冷紗が畑一面に敷かれた奇妙な光景に興味を抱き、「べたがけ栽培」について観察や試験を行ったようです。

三年間の石垣島での勤務を終えて、つくば市にある農業研究センターに異動となった中村さんは、「べたがけ栽培」を沖縄だけの技術

としておくのはもったいないと考え、広く普及を図るために農業気象学的な解明と技術の一層の改良が必要なことを、野菜や農業気象の関係者に説きました。そして、中村さんや彼の考えに賛同した農業環境技術研究所の岡田益己さんたちが中心になって「べたがけ研究会」が立ち上げられました。その後、全国の農業試験場や大学で「べたがけ栽培」についての多くの試験研究が行われ、被覆による効果発現のメカニズムなどが解明されました。

また、「べたがけ研究会」は、不織布の開発を手掛け、その農業利用を模索していた資材メーカーなどからなる日本農園芸資材研究会(事務局・太平洋興業株式会社)と一緒に、被覆方法や資材の改良を進めました。

こうして、技術の確立が図られ、全国に急速に普及したのです。

F



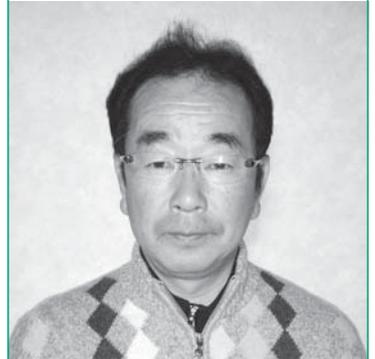
Profile

よしおか ひろし
1948年京都府生まれ。弘前大学大学院農学研究科(修士課程)修了後、農林省野菜試験場入省。農林水産技術会議事務局研究調査官、(独)農研機構野菜茶業研究所長、(社)日本施設園芸協会常務理事などを経て、2012年10月から現職。専門は野菜の栽培生理。農学博士、技術士(農業部門)。

NPO法人鳴子の米プロジェクト

上野 健夫

(五五歳)



●うえの たてお
一九五九年生まれ。水稲(三〇〇㍏)、繁殖
和牛(一五頭)、花き(二〇㍏)を経営する
専業農家。合わせて、家畜人工授精、家畜
受精卵移植師としての業務も行ってい
る。二〇〇六年より鳴子の米プロジェクト
理事長に就く。

私

たちは、温泉とこけしで有名な宮城県大崎
市鳴子温泉の山深い地で、過疎化や高齢
化とともに衰退していく中山間地の小規模農家を
支援し、地域農業を何とか再生できないものかと、
二〇〇六年から活動をしている団体です。

地域の農家をはじめ、旅館などの観光業者やこけ
し工人、行政、JAといったさまざまな立場の者によ
り構成され、適地適作の観点から山間寒冷地向けの
低アミロース米「東北一八二号」を栽培し、「作り手」
が安心してつくれる価格で、「食べ手」が買い支える
仕組みづくりに取り組んでいます。

一四年産の米価は一俵当たり八四〇〇円(ひとめ
ぼれ一等米)まで下落し、もはやコメづくりは仕事と
して成り立たない状況にあります。

このような中で、私たちはあえて手間暇がかかる
「杭掛け」と呼ばれる稲を杭に重ねて自然乾燥させる
ことにこだわったコメづくりに取り組んでいます。
こうしてつくった私たちのコメには「物語」がありま

す。「食べ手」の皆さんに田植えや稲刈りに参加して
もらい、自然環境の素晴らしさや、コメづくりの大変
さを理解していただくことで、私たち「作り手」と「食
べ手」の信頼関係が築かれていると思います。

この活動を通じて得た信頼関係と「コメの価値観
を共有」することにより、一俵二万四〇〇〇円という
価格設定を実現することができています。

一俵二万四〇〇〇円というと随分高い価格のよう
に思えますが、皆さんはどうお考えでしょうか。一俵、
つまり六〇キログラムのコメを五キログラム二〇〇〇円
で買ったとすると、茶碗一杯分の値段はたったの二四
円！一四円で買えるものといったら、たとえば缶
コーヒーは一口、イチゴは一粒。そう考えると、なん
てご飯は安いのでしょうか。

半面、コンビニのおにぎりは一個二二〇〜一五〇
円くらいで販売されています。しかし、具材や人件費
を考慮しても、この価格を一俵当たりのコメの価格
に換算すれば、とんでもない価格になるのに、「食べ

手」は何のためらいもなく購入しているのです。

このように、「作り手」と「食べ手」との間にはコメに対する認識や価値観が大きく食い違っているのが現状です。

国

は農地の大規模化や集約化を促し、「農業も輸出産業へ」と政策を推し進めています。もちろん、これらの政策は日本の農業にとって大切な一つの道筋かもしれませんが、平坦な土地が少ない日本にとっては万能政策とは思えないと思います。多くの中山間地が同じ悩みを抱え、これからどうやって前に進むべきかを模索している中で、私たちの活動は一つのヒントになるのではないのでしょうか。

これからの日本の農業は、大きく二分化していきそうな気がします。一つは大都市や海外をターゲットにした大規模農業です。そしてもう一つは、私たちが目指している農産物直売所や産地直送といった地域密着型の農業です。

中山間地の農業は、ほ場が小さいことなど、さまざまな条件により、決して生産効率がよいとはいえません。

しかし、永く育まれた農村の文化や自然環境の保全など、多面的な要素を併せ持った価値のある仕事であり、市場原理では勝ち残れないからといって、決してなくしてはいけないものだと思っています。地域の田んぼは合わせて一四畝というほんの小さな面積ですが、今、九〇〇人もの「食べ手」の皆さんからご賛同いただいて、一四年産のコメは既に完売しました。

小さな地域の小さな活動ですが、これをヒントに日本各地でそれぞれの地域の特色を生かした、地域密着型の農業が広がって、多くの中山間地が元気になってほしいと願っています。

鳴子の米プロジェクトは今年で二〇年目という大きな節目を迎えます。今年一月、東京都の神田にオープンした「おむすび権米衛」の店舗へ私たちのコメを供給することになり、鳴子のコメを提供する場が増えました。

また、一五年産米の予約も始まり、今年も忙しい年になりそうです。私たちがつくるコメを楽しみに待っていてくれる「食べ手」の皆さんのために頑張ろうと思っているところです。



作り手が安心して生産できる価格で
食べ手が買い支えるため価値観共有を

Forum Essay

フォーラムエッセイ

私の名前「DJみそしるとMCごはん」というのは、私が女子栄養大学在学中に卒業制作として始めたプロジェクト名です。なんとこのやらと思われるでしょうが「白和え」「ピーマンの肉詰め」「おまんじゅう」などといった、とても身近な料理のつくり方をヒップホップという音楽に乗せてラップする(歌う)という、手前味噌ながら、料理本いらずの画期的な研究でした。

無事、大学を卒業した私は、その後いろいろなご縁もあり、本格的に「料理活動」ではなく、本格的に「音楽活動」を始めることになりました。当初、自分は料理研究家ではないので、世の中にあるレシピを楽しく歌で伝えたいと思っていました。しかし今は、自分で料理を考えたりもしています。

最近研究しているのは「あんかけ炊炒飯」。

炊飯器の中にあんかけの素を入れて、炊き込みご飯とあんかけを同時につくる、お手軽だけどおいしくて本格的なチャーハンです。

学生時代は今より時間もあつたので、ゆっくりと丁寧に料理をしていましたが、実際社会に出てみると、世の中ですごく大変で忙しい！

この実感から、「時間を短縮しつつ、でもおいしい!」、そういう料理も必要とされていて大事なんだと考えるようになり、この料理が生まれました。大げさですが、時代に乗らないと、浦島太郎みたいになっちゃうかもって(笑)。

今の課題は、レシピを自然と覚えられるような、心地よいリズムを持った歌詞を書くことです。

実力のあるラッパーの方と共演したときに、本格的なラップは自分の身体を鳴らして発するものだという体験をして、とても感動したんです。

料理も身体で覚えるものだから、それに近いような言葉を使ってラップができたらかっこいいなと思っています。

聴いてくれた人が、お母さんの料理だったり、おばあちゃんの料理だったり、自分のルーツの味を大事にしつつ、私の曲を口ずさみながら、料理をしてくれたら本当に嬉しいですね。



ヒップホップミュージシャン
DJみそしるとMCごはん

でいーじゅーみそしるとえむしーごはん
「おいしいものは人類の奇跡だ!」をモットーに、トラック、リリック、アートワーク、ミュージックビデオなどを全てをみずから制作し、料理と音楽の新たな楽しみ方を提案する、超自家製ラッパー。出演する新感覚料理番組「ごちそんぐDJ」はNHK Eテレで放送中。

ヒップホップでお料理を

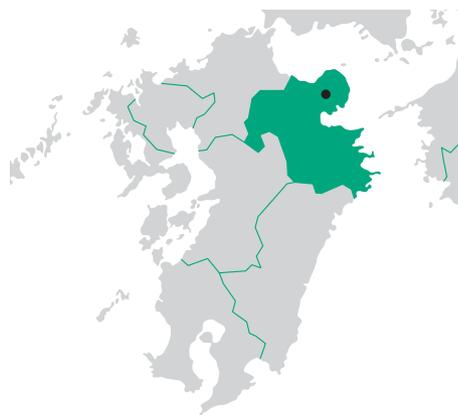


世界農業遺産の歴史と文化と景観に 過疎化・高齢化の里がよみがえる

大分県豊後高田市

田染荘荘園の里推進委員会事務局長

蔵本学



中世の農村景観を守る

世界農業遺産「クヌギ林とため池がつなぐ国東半島・宇佐の農林水産循環」の郷、国の重要な文化的景観「田染荘小崎の農村景観」で知られる田染荘は、大分県北東部の国東半島西側の豊後高田市にあります。人口約二万三五〇〇人で、市内の観光名所に「昭和の町」、日本夕日百選に選ばれた「真玉海岸」、ひまわり畑で有名な花の岬「長崎鼻」などがあり、西日本有数のそばの産地でもあります。瀬戸内海に面し、温暖な気候で、二〇一三年には、「田舎暮らしの本」(宝島社)の「第一回住みたい田舎ベストランキング日本一」にも選ばれました。

田染荘は、最盛期には九州の荘園の三分の一以上を支配していたといわれる宇佐神宮の荘園の中でも重要視された荘園で、その範囲は現在の田染地区全体とほぼ同じであったといわれています。平安時代以降、宇佐神宮の八幡信仰と天

台宗が結びついた神仏習合の「六郷満山文化」が花開き、田染地区内だけでも富貴寺大堂(国宝)、真木大堂(九体の仏像が国重要文化財)、熊野磨崖仏(国重要文化財・史跡)があるなど「仏の里」としても知られています。

荘園の里推進委員会(以下、委員会)のある田染小崎地区は、現在も、平安・鎌倉時代の集落や水田の位置がほとんど変わらずに残されているとされています。総戸数四三戸(うち移住者五戸、農家民宿四戸)で、人口は約八〇人です。

当地区は、これからご紹介する委員会の取り組みや行政のバックアップにより、市のグリーン・ツーリズムの発祥の地として、北九州や広島県からの教育旅行を受け入れています。また、各宿は一般の方にも人気を博しています。

委員会が設立されたのは一五年前までさかのぼります。当時、地区ではほ場整備をするかしないかについて、十数年にわたり連日連夜の激論が続いていました。そして、一九九九年八月に当

地区では、ほ場整備を行わないことを決定。地区の発展と地域住民の活力増進を目的に、同年九月に、田染小崎自治会の下部組織として、活動がスタートしました。

ほ場整備をしないという結論に至った決め手は、行政や学者の先生方との議論をする中で住民が田染荘の歴史的重要性を認識したことです。このため、水路や農道の整備などについては農林水産省の田園空間整備事業を活用し必要最低限の実施にとどめました。

自然と歴史が融合している田染荘は、都市と農村を結ぶ架け橋になれると考えました。そこで、都市からの交流人口を増やすことが、地区の発展と住民の活力を増進すると判断したのです。

委員会は、後述する荘園米を栽培する農家が所属する営農部と、イベントでの炊き出しや「マコモのきんぴら」など特産加工品開発をする女性部があります。都市農村交流、草刈り・花文字などの景観保全には、組織全体で取り組んでいます。

profile

蔵本 学 くらもと まなぶ

1979年生まれ。広島県福山市出身。2011年豊後高田市田染小崎に移住し、荘園の里推進委員会情報発信員に就任。ホームページ「豊後国 田染荘 荘園の里」やFacebook「豊後国 田染荘 荘園の里小崎 ほたるの館」を作成・運営。13年より現職。「荘園マルシェ実行委員会」「たしづ活・活」の事務局長も務める。本業は学習塾経営。マコモダケ栽培にも取り組む。豊後高田千年ロマン観光検定千年ロマン観光マスター。

荘園の里推進委員会

1999年設立。翌年、開始した「荘園領主制度」(荘園米の水田オーナー制度)、御田植祭・収穫祭をはじめとする都市農村交流や、国重要文化的景観「田染荘小崎の農村景観」の保全(草刈り・菜の花の花文字)、女性部による松花堂弁当「恵み御膳」「マコモのきんびら」「シイタケの甘辛煮」などの商品開発に取り組む。世界農業遺産認定を励みに、若手移住者と一緒に地域資源のさらなる活用に取り組んでいる。

荘園米は、慣行栽培よりも化学肥料・農薬を五割以上減らし、粘土質の土壌である地区内のほ場五鈴で、六月にはホタルが乱舞するほどきれいな小崎川やため池の水を利用し栽培しているものです。

あなたも「荘園領主」になれる

都市農村交流の根幹となるのが、二〇〇〇年に始めた水田オーナー制度の一つである「荘園領主」制度です。当初は実際に田で耕作していたく直接耕作型がありましたが、遠方から定期的に当地まで通うのは困難と判断し、直接耕作型は二年で終了。現在は、年会費三万円です。五〇キログラムを一〇月から翌年九月までの希望月に最大五回まで分割発送する、「荘園領主」

「ス」が人気となっています。この荘園米がおいしいと評判が広がり、昨年度は約一七〇口にまで申込数が拡大しました。大分県や隣の福岡県はもちろん、関東・関西にもたくさん「領主」はいらっしやいます。

「荘園領主」の募集は、三月中旬から四月中旬までです。御田植祭・収穫祭に来ていただいた領主には、コミュニケーション施設「ほたるの館」で女性部による心づくしの昼食などを用意しています。

領主の方とは、御田植祭と一緒に手植えを行い、収穫祭と一緒に収穫の喜びを分かち合い、献穀祭と一緒に宇佐神宮に奉納する流れになっています。中でも御田植祭は、田染荘を治めていた荘官の子孫である宇佐神宮の永弘権宮司ご齋主の下、神事を執り行っていたとき、富貴寺のご住

職の「ほら貝」の合図で、一斉に手植えをし、農業と神仏習合が調和する取り組みで、大変好評です。

景観維持で移住にも注力

当地区内にも、奥まった場所で日当たりや水はけの悪いところには耕作放棄地があります。しかし、高台にある夕日観音から展望すると、田には、まだまだ元気な耕作者がいらっしやることとが分かります。ただちに後継者を探す必要がある土地はなく、その意味で新規就農する場所がないのが現状です。私も委員長ら役員と一緒に荘園米の荷づくりを行っていますが、七〇歳代後半でも軽々とコマ袋を担ぐ方々を見て、尊敬するとともに、当面の地域営農は大丈夫だと



上：御田植祭では別府大学をはじめとする学生も早乙女衣装で参加。
下：田染荘小崎の景観。昔懐かしい、四季折々の日本の原風景に出会えます。3月中旬からは「荘園領主」の募集が始まります。

思っています。

とはいえ、何もしていないわけではありません。市が空き家バンクを整備するなど移住・定住に力を入れており、当地区でも移住者が五戸でそのうち三〇歳代が三戸います。文部科学大臣が視察された市営で授業料無料の塾の「学びの21世紀塾」をはじめ、子育て・教育環境の向上にも力を入れていることが高く評価されているのではないかと思います。

移住者に専業農家はおりませんが、野菜を栽培し、地元スーパーや直売所に出している方もいます。また、私を含め二人が委員会の役員になっており、地域活動に積極的に取り組んでいます。年に三回以上地域総出で行われる草刈機を用いての景観保全活動、鉄柵張りなどの鳥獣害対策や御田植祭、収穫祭や地域伝統行事である田染三社の御神輿祭などにも参加してくれま

す。地域コミュニティとこの素晴らしい農村景観を維持するためには、なんとかして人口を維持することが肝要ではないかと思えます。当地区内にも、仏壇があるなどの理由で空き家バンクに未登録の空き家があります。住まい家は傷むペースが早く、景観の観点からも問題です。引き続き、空き家対策を委員会で検討していかなければならないと考えています。

地区の過疎高齢化が進む中、いざという時の農業後継者の確保対策として、若手農業者を含む近隣地域との連携を始めました。二〇一三年に「たしづ活・活」を、同じ田染地区で精力的に活動している真木青壮年部、路活性化協議会、荘園マルシェ実行委員会らと立ち上げました。以

前は近くに住んでいながら共同で何かに取り組むことはなかったのですが、「案山子コンクール」「フォトコンテスト」「案山子ウォーク」「100人BBQ大会」などに一緒に取り組むことで、連携の強化に努めています。

世界農業遺産認定を受けて

二〇一三年、世界農業遺産認定を受け、お土産用として二合入り荘園米の小袋や、来訪者用に松花堂弁当「荘園の恵み御膳」を開発しました。荘園の恵み御膳は、荘園米、シイタケ、マコモなど地元の特産品や、旬の野菜をふんだんに使った田舎料理が中心で、小崎地区のお母さんたちが心を込めてつくっているものです。

視察に訪れた方が、「荘園の恵み御膳」のふたを開け、「すごい」と歓声をあげるのを聞いて大変うれしく思っています。さらに、食味計を活用して「国東半島宇佐地域世界農業遺産地域ブランド認証制度」の基準を満たすプレミアム米(仮称)などの高付加価値商品の開発も進めています。

インターネットの活用にも力を入れ、ホームページやFacebook、Twitterで情報発信。大分県の多彩な魅力をお届けするオンラインショップ「OrianMade」には「田染荘詰め合わせセット」を出品しています。

また、行政の協力を得て、クヌギ林とシイタケのほだ場、ため池を見学できる世界農業遺産満喫コースを整備し、散策マップ「田染荘小崎を歩く」を作成。散策するだけでなく、シイタケ狩りとシイタケのバーベキューを体験できる交流プランで、人気となっています。ただ、原木シイタ

ケができる時期は天候に左右されます。特に、一月初旬は収量が小康状態となり、過去には一件ツアーの開催を中止したことがあります。自然相手の難しさを再認識しました。シイタケ農家との連携強化など、受け入れ態勢をさらに整えなければならぬと考えています。

世界農業遺産認定による知名度の上昇と、このようなさまざまな活動により、地区にはたくさんの方がお見えになります。委員会の役員をはじめ住民も景観を守ってきてよかったという思いや、地元に対する誇りが強まっていると感じます。また、委員会では、次世代へ継承するため地元の中学校などでの講演にも積極的に協力しています。大変ありがたいことに、地元の田染小学校・田染中学校には、委員会の主要行事に毎年参加していただいております。非常に心強く思っています。

これらの取り組みが認められたためか、昨年七月の林芳正農林水産大臣(当時)、一月の韓国からの視察をはじめ、視察や取材が大幅に増えました。一月は毎日視察が入っていた週もあり、時にはお断りせざるを得ないときもありました。重要文化的景観の選定範囲の拡大の検討が始まっており、本年も忙しくなりそうです。

委員会は、事務局長の私を含め専従者がいないこと、空き家問題など課題は山積しておりありますが、行政、学者の先生方、荘園領主や近隣地域の皆さまの温かいご支援をいただきながら、これからも歴史と環境が水田によって維持されてきたといえるこの地の保全に取り組んでいければと思っております。

『血盟団事件』

中島岳志 著



(文藝春秋・2,100円 税抜)

百姓が「夢」に決起するとき

宇根豊 (百姓)

それまでの私は、百姓がテロリストになれるはずがないと思っていた。血盟団事件とは、昭和農村恐慌に憤慨した青年たちが、一九三二年に井上準之助前蔵相や財界の團琢磨を射殺し、さらに多くの指導者を殺そうと企てた事件である。四カ月後に五・一五事件につながっていく、近代の農業史でも重要な出来事だ。

私のイメージが狂ったのは、彼らが自分自身をしっかりと見つけ、精神世界の安定を探し求める求道者であったことだ。

井上前蔵相を殺した小沼正(二〇歳)は言う。

「国家や社会に自己が目覚め、同時に社会民衆に覚醒を呼びかけていく運動が革命であると思う」「悩み多き自我は宇宙の中に溶け込んで、宇宙と一体になったときに救われる」。そういう悟りに彼は達し、身を捨てることを惜しまなくな

る。自分にできることは、テロしかないと思いつめるのは、最後になってからであった。

彼らの指導者・井上日召は、宮沢賢治と共に日蓮宗の「国柱会」にも属していたことのある僧侶である。彼はよく村を回り、百姓の生活実態を身をもってつかんでいた。当初は百姓の青年たちを組織して、国会を包囲するというような穏健な運動論を考えていたが、一向に展望が開けないときに、残された道は「一君万民」の理想社会から射す光だった。天皇の下では、資本主義の弱肉強食の論理は成り立たず、全ての人間は平等に生きられるという夢にかけたのだ。

「雖が外殻を破壊した時、雖自身の生命が生まれ出ることができるよう、破壊がそのまま建設なのである」と決断する。そうした世の実現を妨げている「君側の奸」を排除するしかないと思いつめていく過程は、鬼気迫るものがある。

著者の中島岳志は三九歳の学者だが、思考の深さと表現力の豊かさに感服した。テロリストを予断を持って裁くのではなく、しっかり寄り添って、心情の深みに降りていく精神力は並の学者のものではない。彼は言う。

「どうしても現在社会のことを思わざるを得なかった。格差社会が拡大し、人々が承認不安に苛まれる中、政治不信が拡大し、救世主待望論が浸透する現実は、一九二〇年代以降の日本とあまりにも状況が似ている」

著者もまた危機感を背負って学に赴いていることがよく分かった。

読まれます 三省堂書店農林水産省売店(2014年12月1日~31日・税抜)

タイトル	著者	出版社	定価
1 週刊ダイヤモンド2014年11月29日号 JA解体 農業再生		ダイヤモンド社	657円
2 農山村は消滅しない	小田切 徳美 / 著	岩波書店	780円
3 TPP交渉と日米協議 日本政府の対応とアメリカの動向	服部 信司 / 著	農林統計協会	2,500円
4 脱・限界集落株式会社	黒野 伸一 / 著	小学館	1,600円
5 農業と経済2014.11臨時増刊号 和食 文化・歴史から農業振興まで		昭和堂	1,619円
6 シリーズ・いま日本の「農」を問う1 農業問題の基層とはなにか いのちと文化としての農業	末原 達郎、佐藤 洋一郎、岡本 信一、山田 優 / 著	ミネルヴァ書房	2,500円
6 シリーズ・いま日本の「農」を問う2 日本農業への問いかけ「農業空間」の可能性	桑子 敏雄、浅川 芳裕、塩見 直紀、櫻井 清一 / 著	ミネルヴァ書房	2,500円
7 EU共通農業政策改革の内幕 マクシャリー改革 アジェンダ2000 フィシユラー改革	アルリンド・クニーヤ、アラン・スウィンバンク / 著	農林統計出版	3,500円
8 日本農業の動き184 TPP 農畜産物への影響は	農政ジャーナリストの会 / 編	農林統計協会	1,200円
9 儲かる農業論 エネルギー兼業農家のすすめ	金子 勝、武本 俊彦 / 著	集英社	700円

「公庫林業資金友の会」を
開催

二月二日、近畿管内の公庫林業関係資金のご融資先や関係機関の三四人にご参加いただき、「公庫林業資金友の会」を開催しました。

京都府産木材認証制度運営協議会アドバイザー・京都府参与を兼任し、木材工学を研究されている京都府立大学大学院准教授の古田裕三氏を講師にお招きし、木質資源の利用方法から最新の研究まで、林業経営だけに留まらない幅広い内容でご講演していただきました。参加者からは、「木材への知識や思いを改めて学ぶことができた」などの感想が寄せられました。

(京都支店)



講演のテーマ「木質資源の利用は地球を救う」

オホーツクで農と食の講演
会が盛況

二月五日、北見市内にてオホーツク総合振興局などとの共催で「農業法人セミナー」を開催し、農業者、食品企業など総勢一五〇人にご参加いただきました。

江別製粉株式会社社長の安孫子建雄氏と株式会社サラダボウル社長の田中進氏を講師にお招きし、安孫子氏から「予測できない自然の変化と私達の食べ物の世界」、田中氏から「農業は大きなビジネスチャンス」と題してご講演いただきました。農業振興に必要な人づくりや六次産業化などの話題に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

(北見支店)



講演会の後は交流会で情報交換

第二回「アグリネットワーク
秋田」を開催

二月一日、秋田市内で「アグリネットワーク秋田」を開催し、公庫のお客さまや関係機関など五五人にご参加いただき、講演会とともに商談会を実施しました。

講演会では、株式会社結アソシエイト取締役の松田恭子氏より、「生産者と消費者・実需者を結びつける商品づくり、販路開拓」、大潟村松橋ファームの松橋拓郎氏より、「人と人が繋がる農業を目指して」と題してご講演いただきました。参加者からは、「商品開発の留意点や仕組みづくりのプロセスが分かりました」などの感想が寄せられました。

(秋田支店)



商談会でも商品開発への関心の高さがうかがえました

● 交叉点 ●

農業金融の国際会議に出席

二月一〜三日までスリランカのロンボでアジア太平洋農村・農業金融協会（APRACA）の理事会と地域政策フォーラムが開催され、日本公庫から特別参与の田口克幸ほか二人が出席しました。

理事会では、活動内容の確認と活動計画を承認。フォーラムでは、地域農業金融における気候変動の影響緩和をテーマにパネルディスカッションが行われ、日本公庫からはセーフティネット資金の概要を説明しました。三日にはセイロン銀行が融資したエビ養殖場などを視察しました。

(情報企画部)



アプラカ理事会の様子

九州経済連の木材輸出の取り組みを後援

昨年二月一日～二日、九州三カ所で全国初の製材品輸出の商談会が開催され、公庫のお客さまも一七社にご参加いただきました。参加者からは初めて取り組む輸出への手応えも聞かれ、今後が期待される盛況ぶりでした。

主催者である九州経済連合会産業第一部の加來英彦氏から寄稿いただきましたのでご紹介します。

*

一般社団法人九州経済連合会(以下、連合会)は、日本貿易振興機構(以下、ジェトロ)との共催で、宮崎市、熊本県八代市、大分県日田市の三カ所で、海外バイヤーが参加した「製材品輸出商談会in九州」(後援:

日本公庫ほか)を開催しました。

製材品に絞った木材の商談会は全国で初めての開催であり、中国三社、韓国三社、合計六社のバイヤーを招き、宮崎県八社、福岡県七社、大分県六社、熊本県六社、鹿児島県三社、九州域外より五社、合計三十三社の製材業者、森林組合などが参加されました。

連合会では、二〇一三年五月に「九州地域の森林・林業・木材産業アクションプラン※」を策定し、九州次世代林業特別部会(以下、林業部会)を設置、「スターティング・プロジェクト」を実施しています。商談会はその一つとして取り組んでいるものです。

背景としては、ここ数年、円安などの影響から九州地域の原木輸出は伸びていますが、輸出されている原木はC、D材といわれる低品材で、これらは、九州地域で計画されている多くの木質バイオマス発電所向けの燃料用との原木の取り合いになる可能性があります。

一方、木造軸組み住宅の着工戸数は、少子・高齢化の影響から長期低下傾向にあり、製材向けのA、B材の需要増は見込めません。そのため、新規需要先として中国、韓国などアジアへの製材品の輸出を考え、必要がありました。

企画の段階では、原木を含めた木材商談会でしたが、林業部会で検討した際、「輸出にまわせる原木にも限りがある」などの意見が出されたため、製材品に絞りました。日本からの製材品の輸入に関心を示すバイヤーの発掘に時間をかけて取り組み、売り手の募集期間を短くしましたが、九州七県の林政課のご協力により、三五社もの製材業者、森林組合などが参加してくれました。

商談総数は三会場合計で一三三件、成約見込件数二六件、成約見込金額二億四五〇〇万円と、連合会が当初成約見込金額の目標として

いた一億円を大幅に上回りました。バイヤー選定の際に業者が輸出したい製材品の輸入に関心を示すバイヤーに絞り、業者との商談を多数マッチングできたこと、円安により製材品が購入できる価格になったことなどが要因と思われます。

商談会の参加バイヤーからは、「二・四の製材品が必要」「北米のツーバイフォー(2×4)の規格の製材品が必要」「スギとヒノキの可能性を広げてみたい」などの意見があり、売り手からは「中国、韓国のニーズがよく分かった」「今後は輸出なしでは林業は成り立たない」などのご意見がありました。

今後は商談会のバイヤーおよび製材業者、森林組合などのご意見を基に、林業部会調査・研究WGで、中国・韓国のニーズ分析、対応策について検討し、製材品の輸出促進に役立てていきたいと考えています。
(九州経済連合会 加來英彦)

【参加バイヤー】

- SANGSHIN TIMBER Co.,Ltd(韓国)
- NAMUWOOD Co.,Ltd(韓国)
- SAMIK Co.,Ltd(韓国)
- 広州市欧原木业有限公司(中国)
- 広州海漸達国際貿易有限公司(中国)
- 東莞市尚源木業有限公司(中国)

※詳細は本誌二〇一四二月号掲載。熊本支店は林業部会のオブザーバーとして参画しています。



熱心な商談が繰り広げられました

会場	商談件数	成約見込件数	成約見込額 (単位:百万円)
宮崎	38	11	16
熊本	44	9	123
大分	41	12	106
総数	123	26	245

注1:製材業者、森林組合など35社のアンケート結果を集計したもので、契約が成立したものではない

注2:成約見込金額にはバイヤーの希望により業者が商談に応じた原木に係る成約見込の額を含む

メール配信サービスのご案内

日本公庫農林水産事業本部では、メール配信による農業・食品産業に関する情報の提供をしています。メール配信サービスの主な内容は次の4点です。

- ①日本公庫の独自調査(農業景況調査、食品産業動向調査、消費者動向調査など)結果
- ②公庫資金の金利情報や新たな資金制度のご案内、プレス発表している日本公庫の最新動向
- ③農業技術の専門家である日本公庫テクニカルアドバイザーによる農業・食品分野に関する最新技術情報「技術の窓」
- ④日本公庫が発行する「AFCフォーラム」「アグリ・フードサポート」のダウンロード

メール配信を希望される方は、日本公庫のホームページ(http://www.jfc.go.jp/n/service/mail_nourin.html)にアクセスしてご登録ください。(情報企画部)

◆毎月、日本農業の変革や、農業者のあり方、経営改革などの現状を正しく捉えた喫緊の課題に対応していただき、感服し、また共感しながら『AFCフォーラム』を拝読しています。

これらの貴重な提案や情報が、もっと身近な地域の農業政策や現場の指導者に理解され、かの農に對する基本的理念になれば、今後、外圧や内圧にも負けない日本農業は再構築できるものと確信しています。

岡山でブドウの品種の研究開発とブドウの販売をしている私は、日本農業の振興こそ、日本人が世界に誇る素晴らしい資質や文化を

育み育てる場であると信じています。健康で命のある限り、農の振興に努力したいと願っています。

(岡山市 花澤茂)

みんなの広場への意見募集

本誌への感想や農林漁業の発展に向けたご意見などを同封の読者アンケートにてお寄せください。「みんなの広場」に掲載します。二〇〇字程度ですが、誌面の都合上、編集させていただきます。

「郵送およびFAX先」
〒100-0004
東京都千代田区大手町一丁目九番四
大手町フィナンシャルシティノースタワー
日本政策金融公庫
農林水産事業本部
AFCフォーラム編集部
FAX 〇三三三三〇七〇三三五〇

編集後記

④木材の需要拡大のために何ができるか。川下を中心にその方向性を探ってみました。五十田・南両氏の言う、安い材が手軽に手に入るご時世、川上と結び付いた国産材の利用推進はあくまで特殊解とする論にうなりつつも、どこかで納得。私も同じ問いを、川上の生産者だけでなく末端消費者にも投げ掛け、意見を聴いてみたい。(竹本)

④姉妹のいない私は姉妹がいたらいいのになあと、常々思っています。「農と食の邂逅」の高梨尚子さんと妹の道代さんは、いつも一緒に野菜や加工品をつくっています。抜けるような青空の下、真っ白な三浦大根を持つ尚子さんと、隣で嬉しそうに笑う道代さん。姉妹ならではの信頼が二人の笑顔に表れています。うらやましい限り。(小形)

④国産材の需要拡大につながる新たな動きの一つ、CLT。木材なのに中高層建築が可能というのに驚き、海外に実在する建物の写真は想像を超える規模で衝撃を受けました。CLTの建築物は、木の暖かみを感じられ、雰囲気がとても素敵だそう。近い将来、もっと身近な存在になるかもと思うだけでワクワクします。(城間)

④多論百出の「食べ手と作り手の価値観の食い違い」に驚き、コメの価格を見る目が変わりました。高いなと感じていたコメも、上野さんの話を思い出し、作り手のことを考えれば、実は高くないと感じるようになります。上野さんたちの活動目的の一つ、「作り手と食べ手の価値観の共有」はとても大切なことですね。(林田)

AFCフォーラム Forum

- 編集
大本 浩一郎 竹本 太郎 清村 真仁
小形 正枝 飯田 晋平 城間 綾子
林田 せりか
- 編集協力
青木 宏高 牧野 義司
- 発行
(株)日本政策金融公庫 農林水産事業本部
Tel. 03(3270)2268
Fax. 03(3270)2350
E-mail anjoho@jfc.go.jp
ホームページ <http://www.jfc.go.jp/>
- 印刷
株式会社第一印刷所
- 販売
(一財)農林統計協会
〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-9-13
目黒・炭やビル
Tel. 03(3492)2987
Fax. 03(3492)2942
E-mail publish@aafs.or.jp
ホームページ <http://www.aafs.or.jp>
- 定価 514円(税込)

- ④ご意見、ご提案をお待ちしております。
- ④巻末の児童画は全国土地改良事業団体連合会主催の「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展の入賞作品です。

国産にこだわり 農と食 をつなぎます。



第8回 **アグリフード EXPO** 大阪 2015
プロ農業者たちの国産農産物・展示商談会

日時 **2月19日** (木) / **20日** (金)
10:00~17:00 / 10:00~16:00

主催 **JFC** 日本政策金融公庫

会場 **ATC アジア太平洋トレードセンター**



国産材の内需は増えるか



「すみ(炭)焼き五平もち」 深津 遥生さん 愛知県豊田市立寿恵野小学校

■AFCフォーラム 平成27年2月1日発行(毎月1回1日発行)第62巻11号(774号)
 ■発行/(株)日本政策金融公庫 農林水産事業本部 〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 Tel.03(3270)2268
 ■販売/一般財団法人 農林統計協会 〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-9-13 Tel.03(3492)2987 ■定価514円 [本体価格476円]

